



「あなたの神、主が愛される隣人を愛せよ」  
申命記 5・16~21 (要旨) 説教者 原田憲夫

「申命記」は、過去、現在、未来にわたり変わる事のない「神の真実」-「約束(みおしえ)」を、キリストを信じ従う人たちにはつきり示す道です。今朝も謙虚な心で御心/みおしえに耳を傾けましょう。

【1】あなたの神、主の命じられたとおりに-  
父と母を敬え (16)

(1) 「敬え」

ここで命じられる「父や母を敬う」ことは、「父や母に従う」(エペソ 6・1-4) ことと切り離せません。

▶ヨハネ 10・3b-4「牧者は自分の羊たちを、それぞれの名を呼んで連れ出します。・・・羊たちはついて行きます。彼の声を知っているからです。」

(2) 主の教育と訓戒によって

この命令に伴い、新約聖書は父や母たちに「主の教育と訓戒によって育てなさい」(エペソ 6・4) と勧めます。

キリストにある家庭-を「小さな牧場マカ」にたとえると、父や母たちは小さな羊飼いです。この家庭の子どもたちは、父や母たちから初めて祈ることを学び、また日々の糧とともに心の糧-みことばを頂いて育ちます。

▶このとき大事なことは、父や母たちが自ら喜んで良い羊飼いである主によって養われ、訓練を受けていることです。こうした父や母たちの後ろ姿を通して子どもたちは成長し、真実の神のもとへ導かれます。ここに、「父や母を敬え」と勧める大きな理由があります。

▶「家庭-小さな牧場」は「教育の場」にも適用されるでしょう。教育者-教師たちが、子どもたちを「名前と呼ぶ」労を惜しまなければ、一人ひとりの未来を「引き出す」務めを果たせるでしょう。

(3) 「…その土地で幸せになるため」

今日の主の戒め/勧めから見えて来るものは、一つの家族の幸せだけでなく、すべての家族、すなわち社会全体-世界全体が「幸せになるため-ともに-」という目的です。

親子間、家族間の往来も容易でなくなっている今日です。しかし、高齢者が「幸せ」と言える家族、社会、世界となるために、まず足許から「父と母を敬え」という主の教え、すなわち、「家庭/家族を大切にする在り方」を、試練の中にある今の時にそれぞれ見直し、改めようではありませんか。

【2】あなたの神、主が愛されるように-隣人を愛せよ (17~21)

→今週の聖句ローマ 13・9 参照

「幸せになるため-ともに-」という「戒め」の大事な目的を「山上の説教」がさらに明らかにします。

▶マタイ 5・38-48

(1) 「目には目を、歯には歯を」

私たちの内にある復讐心-人の法-は、法外もなくエスカレートしていくものです。しかし、この「戒め」の精神は、私たちの復讐心を克服する正義とあわれみにあったのです！

(2) 「悪に対して善をもって打ち勝て」

キリストは「右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。・・・」と言われます。腹に一物あるような忍耐では、じきに息切れします。「忍耐とは、豊かで余ある、尽きることを知らない自発性」(A.シュラック)なのです。

▶キリストは<悪に対しては善をもって打ち勝て！>と、この「戒め」を生きる者たちの道に新しい光を照らしたのです。→ローマ 12 章。

【招き】

今日の申命記-「戒め」が私たちに指し示す完成図が主イエス・キリストの十字架です。十字架は愛と赦しのメッセージそのものです。

今日、<あなた-自分>が十字架とともに打ち砕かれるなら、神の愛と赦しの幸いはあなたの内に満ち、そして祝福となって周りに流れ出すでしょう！

あなたの神、主が愛される隣人を愛せよ！  
天におられるあなたがたの父の子どもになるためです！

\* 祈り

\* 賛美

